2026_1030「ポルユスで見つけた犬釘」日々の理科 4464 号

お茶の水女子大学　サイエンス＆エデュケーション研究所　田中　千尋

・

秋のスウェーデン北部、ポルユスの線路跡を歩き回りました。目的は、鉄道のレールを枕木に固定するために使われていた「犬釘」を探すことです。犬釘とは、レールの底部を押さえ、枕木に打ち込んで固定する大きな鉄製の釘のことです。頭部が犬の顔に似ていることから、この名前がついたといわれています。日本でも古い鉄道の線路に使われていましたが、現在ではボルトや専用の締結装置に置き換えられ、見かける機会は少なくなりました。

線路跡の砂利の間や枕木の周辺を丹念に探していると、赤茶色にさびた犬釘を見つけました。拾い上げてみると、これがなかなかの重量感です。鉄鉱石の産地として知られるスウェーデンですから、良質な「スウェーデン鋼」で作られているのかもしれません。長い年月、北極圏の厳しい寒さや雪に耐え、列車の走行を支えてきた小さな鉄道遺産です。

何より感心したのは、その頭部の形でした。横から眺めると、突き出した鼻先や額の形が、まるで犬の横顔そのものです。「犬釘」という名前は知っていましたが、これほど犬らしい形をしたものに出会えるとは思いませんでした。長い年月を経て表面は赤さびに覆われていますが、形はしっかり残っています。

日本に持ち帰り、表面に白い文字で「Porjus 2026.9」と書き込みました。美しいオーロラや雄大な北極圏の自然も忘れられませんが、線路跡で拾った一本の古い犬釘も、旅の記憶を呼び起こしてくれる大切な記念品になりました。

（2026 年 9 月中旬／スウェーデン・ヨックモック郡・ポルユス駅）

